

新たなスタート 50年目の大谷口小学校

校長 藤田 雅彦

正門を抜けると桜の花びらが舞い降り、新しい年度のスタートを祝ってくれています。また、昨年度から現2年生が面倒を見ているチューリップがつぼみを付け、見事な花を咲かせています。

本日は、お子さまの御入学、御進級おめでとうございます。心より御祝いを申し上げます。本日、令和4年度1学期始業式と第50回入学式を挙行し、154名の新入生を迎え、全校児童767名（2年生134名、3年生118名、4年生114名、5年生120名、6年生110名、なかよし20名）と58名の教職員でスタートしました。

3年目を迎えました。今年度も大谷口小学校の校長としてお世話になります藤田 雅彦（ふじた まさひこ）です。新しく転入した13名の教職員ともども、開校50年目の歴史の中で、保護者や卒業生、地域の方々に愛され続けている大谷口小学校を、“一所懸命”、さらに信頼される学校づくりを目指してまいります。

さいたま市の教育が目指す人間像『世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人』の育成を目指し、本年度も以下の学校教育目標の下、1 明るい学校 2 活力ある学校 3 開かれた学校づくりを目指します。

学校教育目標 **明るい学校 仲良く進んで学ぶ子**

～元気な「行ってきます」から 笑顔の「ただいま」まで～

昨年度は、引き続き感染防止に留意しながらも少しずつこれまでの日常を取り戻しつつありました。しかし、3学期には多くの学級で閉鎖を余儀なくされ、黙食・換気・手洗い・消毒の再徹底、グラウンドの分散使用等、より現状に合った予防対策を見直す必要にも迫られました。3月23日の第49回卒業証書授与式を無事に開催するためにはと、御家庭の協力をいただきながら健康管理を徹底し、103名の卒業生を保護者とともに送り出すことができたことは、大きな安堵でした。いつも仲良く穏やかで「優しさ」にあふれる卒業生たちに、式の中で私は、次の2つのことを話しました。1つ目は、“この「優しさ」をもち続けてください。人は、弱いものです。隣にいる人のひと言で悲しくなるときもあれば、そのひと言で笑顔になれるときもあります。”そして、“ぜひ、隣の友達のよいところを見付け、「すごいな！」と思える人になってください。”ということです。2つ目は、“「長所」を伸ばしてください。自分の得意を見付け、それを輝かせてください。自信をもってやりぬいてください”ということです。

将来も続くであろうこの困難な状況の中、「規制」から「共生」へ。子どもたちの安全・安心を第一に、「今はできない」ではなく、「どうしたらできるか、できることは何か」という意識をもって、教職員一同、一つひとつの教育活動に取り組んでいきたいと思っております。引き続き、保護者、地域の皆様にも御理解、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

